

モデルファイル利用者ガイド

提出モデルファイルの様式

提出モデルファイルの様式は、次のようになります。

エントリークラス

- 1ページ目：チーム情報、モデルを作った感想、モデルの変更方針
 - **1ページ目は背景を活かしそのまま使うこと。**
 - チーム情報、モデルを作った感想は評価に影響しません。自由に書いてチームをアピールしてください
 - モデルの変更方針は文字、図面など自由に記述してください
- 2ページ目以降：提供モデルをベースに変更したモデルを記述してください

プライマリークラス・アドバンストクラス

- 1ページ目：アブストラクトページ（チーム情報、チーム紹介、概要、モデルの構成）
 - **アブストラクトページは、背景を活かしそのまま使うこと。**
 - **このページの体裁に手を入れてしまうと、評価にいい影響を与えません。**
- 2ページ目以降：モデル図ページ（モデル図本体）

想定する作成用アプリケーション

実行委員会が提供するモデルファイルテンプレートは、パワーポイントのうちセクションを使うことができるバージョン（MS Office 2010以降）を想定しています。セクションが使えない古い版のパワーポイントでも、テンプレートに設定してあるセクションは認識できませんが、テンプレートは利用可能です。

このテンプレートは、アブストラクトページ(エントリーの場合はモデルの変更方針)とモデル図ページの全体を1つのファイルに構成することを想定しています。審査規約に対応したダミーのモデル図ページも追加してあります。モデルファイルの用紙サイズや構成を確認するためにも、このテンプレートを元に提出モデルファイルを作成することを推奨します。また、このテンプレートのスライドマスターには、予めアブストラクトページ用のマスターを登録してあります。アブストラクトページには、アブストラクトページ用のマスターを使うようにしましょう。

他の作成方法について

パワーポイントではなく他のアプリケーションでモデル図を作成し、その後PDFに変換して提出する場合であっても、審査規約が定める提出モデルファイルの構成に従って、アブストラクトページとモデル図ページを併せて1ファイルに編集して提出してください。

例えば、アブストラクトはパワーポイントで作成し、モデル図ページは別のアプリケーションで作成した場合、それぞれをPDFに変換した後、1つのPDFファイルにマージします。

別のアプリケーションで作成する場合は、用紙サイズ、解像度、使っているフォントの違いなどに気をつけ、全体を1つにまとめたPDFをA3横で印刷したときに不具合がないことを確認しておきましょう。

アブストラクトについて(プライマリークラス・アドバンストクラスのみ)

技術文書のアブストラクトの役割

アブストラクト（概要）がどんなことを意味するのか、考えてみたことがありますか。「概要？ だいたいのことをまとめたものでしょ？」くらいに考えている人もいるかもしれません。また、コンセプトとアブストラクトの違いが説明できますか。

みなさんが作成するモデル図は、技術文書の一種です。技術文書であるということは、アブストラクトも技術文書としてのアブストラクトと捉える必要があります。

技術文書のアブストラクトには次のような役割があります。本文というのは、モデルファイルではモデル図ページに相当する部分を指します。

1. その技術文書をみときの入口

- 技術的な資料は、すべてのページを精読するのは手間がかかる
- 文書がたくさんあるときはさらに大変
- そこで、アブストラクトを読んで把握する

2. 本文に読むべき内容があるかどうかを伝える

- 興味を引くあるいは重要なことが書いてないと... → 内容がわからない
- 内容が書いてあれば、本文のなかの念入りに読むべき箇所がわかる
- 興味を引くことができないと... → 読むのをやめてしまうかも知れない
- そこで、アブストラクトで興味を引ければ... → よく読んでみたくなる（だろう）

3. まとめ（summary）ではない

- まとめは、部、章、節の最後を書く
- まとめは、部、章、節ので示した内容、結果の集約、結論の確認、展望

4. アブストラクトだけで完結するよう書く

- やったこと、得られた結果や効果がこれだけでわかる
- 本文へのリンクやインデックスを使ったり、本文を参照...などとしていては完結していない

5. アブストラクトは本文のモデル

- アブストラクトでも抽象化のちからを試されている
- 各人（チーム）に等しく与えられた制限された量に、作成したモデル図の伝えるべき内容を集約するちからがあるかどうか

いかがでしょう。技術文書において、アブストラクトは重要な役割を持っていることがわかったでしょうか。もしそうでないなら、アブストラクトは世の中の文書の中に様式化されて残らなかったはずです。

アブストラクトについてもっと調べる

たとえば、次のようなページを参照すると良いでしょう。

- [概要とはどういう意味？](#)
- [論文の要旨を書く方法](#)
- [要旨](#)
- [要旨と要約の違い・要点の意味](#)

アブストラクトページの果たす役割

アブストラクトページは、コンセプトシートの呼び方を変えたものではありません。

アブストラクトページの1つ目の役割は、モデル図ページの概要を的確にまとめるちからを、モデリング能力の一部として評価することです（抽象化力がある）。2つ目の役割は、アブストラクトによって審査員に対して自分たちの成

果物の重要なところを的確に伝え、結果的に、審査員の認識をチームが重要と思うところへ導くことです（ちゃんと大事なポイントにたどり着ける）。

アブストラクトページは、このような役割を果たすために、提出したモデル図ページに書かれている内容を、短い文章で読み手に把握できるよう便宜を図るものです。つまり、アブストラクトにまとめるときにも、必要なものを残し、そうでないものを隠す・捨てるといった抽象化能力を試されているのです。

したがって、特徴や強調したいことを伝えるというより、全体のあらましがわかることに重きが置かれます（要旨であって論旨ではない）。アブストラクトページに言及した事柄が的確あれば、審査員は、本文（モデル図ページ）を読む前に、どのようなことが書いてあるモデル図なのか把握できます。さらに、審査員がモデル図ページを読んだ後には「この概要はモデルの内容をうまくまとめている（or いない）」と評価できるでしょう。

以上から、アブストラクトページの記載内容は、何をやったという作業リストや、どんな項目があるといった目次のようなものでは用をなさないことがわかるでしょう。

繰り返しになりますが、審査員は、は、アブストラクトページを読んで、みなさんが提出したモデル図の内容をどのくらいの確に畳み込み、読み手に伝えることができるようにまとめているかを評価します。

アブストラクトページの概要

アブストラクトページは、予め様式が定められています。

実行委員会が提供するモデルファイルテンプレートでは、アブストラクトページ用のマスターが用意してあります。このマスターでは、主だった要素をマスターの背景画像にしてあります。これは、各チームのアブストラクトページを一貫性のあるページとして提示することや、運営側が画一的に処理するために工夫したものです。これらの要素を加工したり、編集したりしないでください。

チーム情報

チームNo.、チーム名、所属、地区には、エントリーしたときの情報を記載してください。それぞれについて記載に間違いがあれば、訂正を求められる場合があります。

チーム紹介、目標、意気込み

チームから、審査員や見学者へチームの紹介や意気込みなどを伝える文章を書きましょう。

ただし、利用できる大きさは、テンプレートで提示している範囲までです。

この領域の大きさ枠線などを加工・編集して拡大した場合には、訂正を求められる場合がありますので注意しましょう。

この欄は、モデル図が会場で掲示された際に、閲覧する見学者にみなさんがどのようなチームであるかを伝えるためにあります。

ただし、ここに立派な意気込みを書いても、審査員が審査結果に反映することはないので注意しましょう。

モデルの概要

この欄で求められていること

この欄（モデルの概要）に書いた説明で、モデル図全体を読んで得られる分析、設計の全体像、重要なポイント、効果や実績を捉えられるようにまとめます。

この領域の大きさ枠線などを加工・編集して拡大した場合には、訂正を求められる場合がありますので注意しましょう。

モデル図ページは4から5ページあります。これを限られた時間で詳細まで読むのは容易ではありません。もし、記載されている内容を短くまとめた概要があれば、全体像を把握してもらうときに役立つでしょう。そのためには、みなさんのモデルの内容を端的に伝えることができるよう、うまくまとめて概要とすることです。

みなさんが作成したモデル図に記載されている情報をうまくまとめてみましょう。概要は全体の縮図です。補足や追加、別の主張（モデル図に書いていないことを説明する）といったことを指していないことに注意してください。

全角で300文字程度にまとめてください。審査や、会場で掲示して見学者が読む都合から、文字サイズは16ポイント以上にしましょう。

概要の記述例

■ 内容がわからない記述例

○要求：チームとしての要求を明確にし、自分たちが実現したいことをかみ砕くことで、仕様にまで落とし込んだ。

○制御：高い信頼性を確保し、またゲーム攻略に必要な要素技術と制御方法を記載した。また、もう一つの難所であるAIアンサーで必要となる攻略方法についての記載をした。

この例では、なにをしたのか、何を書いたのかという説明になっていて、内容がわかりません。

■ 内容がわかる記述例

○要求：実測値から走行タイムは16秒が達成できることを鑑み、獲得すべきリザルトタイムの合計を-26秒とした。

○制御：ブロックが飛び出さない保持方式の採用で回転時間を30%程度短縮し、色判定に平均化フィルタを用いて誤検知を15%軽減した。

根拠のある具体的な数値を示す、どのような方式がどの程度効果があったといったことがわかるようになっています。

モデルの構成

この欄で求められていること

ここに書いた説明で、どのように分析設計が進められ、分析に何かが書いてあるか、設計の何かが書いてあるか、制御として何に取り組んでいるか、それらがどのようにつながっているか、といったことが把握できるようにします。

この領域の大きさ枠線などを加工・編集して拡大した場合には、訂正を求められる場合がありますので注意しましょう。

モデル図の各ページの構成要素（図や説明）としてどのようなものがあり、それらの構成要素間の関連について説明しましょう。

説明に有効であれば図を用いても構いません。 審査や、会場で掲示して見学者が読む都合から、文字サイズは16ポイント以上にしましょう。

モデルの構成の記述例

■ 内容がわからない記述例

- 設計（構造）
 - ・パッケージ構造：クラスの値の流れをパッケージ図で表現
 - ・区間制御：ゲーム攻略で重要となるパッケージの解説
 - ・クラス設計：パッケージを反映したクラス図の設計
- 設計（振る舞い）
 - ・ステートマシン設計：制御状態をステートマシン図で設計

構成している図の種類しか記載していないので、どのようなモデルを作成したのか把握できません。

■ 内容がわかる記述例

- 設計（構造）
 - ・全体の構造：制御パラメータ、攻略方法など複数のパッケージに分割し、パッケージ間の関係を疎にした。
 - ・区間制御：ゲーム攻略で重要となる攻略パラメータの情報とパラメータ算出を用いる構造を解説した。
 - ・クラス設計：ブロック並べの動作について、上記区間制御で示したしくみと、デバイスや要素技術との関連がわかる構造とした。
- 設計（振る舞い）
 - ・ステートマシン設計：走行区間や攻略中動作の切り替え契機をイベントとした状態遷移を示した。

それぞれの構成要素に何が書かれているのか、モデルの内容がわかるようになっています。

モデル図ページの概要

モデル図ページは、エントリーしているクラスの審査規約に従って構成します。

モデルファイルテンプレートの使い方

実行委員会が提供するモデルファイルテンプレートは、次のようになっています。

- ・ マスターページ：アブストラクトページ用、モデル図ページ用
- ・ スライドページ：審査規約に合わせたダミーページ

マスターページ

スライドマスターには、次のマスターが登録してあります。

- ・ アブストラクト用（アドバンスト、プライマリー、エントリー用）
- ・ デザイン設定（パワーポイントで新規作成時に提供されるマスター）

アブストラクト用スライドマスターは、アブストラクトページに使うものです。アブストラクトページのスライドマスターは変更しないでください。

アブストラクトページのスライドを作成するときは「ホーム>スライド>レイアウト」で開くメニューからアブストラクト用のスライドマスターを選んでください。

デザイン設定は、一般的なスライドマスターです。モデル図ページの作成には、これを編集してモデル図ページのスライドマスターとします。もし、別のファイルからスライドをインポートする場合には、スライドマスターもインポートしましょう。

スライドページ

実行委員会が提供するモデルファイルテンプレートは、次のセクションを持つダミーのスライドが用意してあります。

- アブストラクトページ
- モデル図ページ

それぞれに、別のスライドマスターが設定してあります。

提出モデルファイルを作成する際は、このテンプレートを元にするといよいでしょう。

以上。